

学年・教科・担当者	2 年（S 組）	音楽科	澤山 早苗
-----------	----------	-----	-------

学期	月	学習内容	学習のねらい
1	4	・歌詞の内容や、全体の響きを生かして 「校歌」「夢の世界を」	曲想や歌詞の意味を理解して、歌えるようにする 声部の役割や全体の響きを意識して表現を工夫する。
	5	・鑑賞 「フーガ ト短調」	旋律が重なりあっていく面白さを知る。 パイプオルガンの豊かな響きを感じ取り、その美しさを味わって聴く。
	6	・表情豊かな歌唱表現	音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、曲にふさわしい表現を工夫する。
	7	・音楽の構成を工夫して ・合唱表現の工夫と指揮	曲の味わいや特徴を支える速度や強弱の変化などの働きを知覚・感受して、表現に繋げる。 指揮を通して、表現の工夫をする。
2	9	・合唱コンクールに向けた取り組み 声部の役割 曲の構成の理解 表現の工夫	自分の声に興味をもち、歌い方を工夫しようとする態度を身に付ける。 発声や発音の技能を身に付け、曲の雰囲気を感じ取って表現に繋げる。
	10		
	11	・鑑賞「交響曲第5番ハ短調」 ・ナポリ民謡「サンタルチア」	モティーフ（動機）がどのように使われているのかを探りながら「ソナタ形式」のしくみを理解し、それが西洋音楽の特徴の1つであることを知る。 カンツォーネの特徴を感じとって、曲想にふさわしい表現を工夫する。
	12	・郷土の祭りや芸能	それぞれの芸能が生まれた背景を知り、その音楽の良さを味わう。
	1	箏の表現を生かして	日本に古くから伝わる箏の歴史や特徴を理解する。 箏の表現を味わいながら、特徴を生かして活動する。

3		鑑賞 オペラ「アイーダ」	物語の進行を理解し、音楽と舞台が一体となって表現される総合芸術に親しむ。
	2	声部の重なり方の理解と表現の工夫	ユニゾンや和声的・多声的な音の重なりによって生み出される味わいを感じ取り、それぞれにふさわしい表現を工夫する。
	3		

評価について	
評価の観点	評価の方法
① 知識・技能	実技テスト 定期考査
② 思考・判断・表現	授業への取り組み 振り返りカードの記入内容 プリントの記入内容 実技テスト 定期考査
③ 主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み 振り返りカードの記入内容 プリントの記入内容